愛國婦人

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回(五日廿日)發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番●遞送無料●振替貯金口座壹壹貳一番

●定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人會●發行兼編輯者永持徳一●印刷人山澤俊夫

明治四十二年十一月廿日發行

Nov. 20th. 1909.

講壇

森志つか

人口は約五千萬人 臺灣から樺太まで 收穫は約七千萬石

嘘のやうだが眞實のことです。

最近、斯う云ふことを、縁續きになつて居る或る模範村の村長から聞きました「私の村の小農の多くは、唯だ空に耕作して居る、何う收支が相償つて居るのか但しは償はぬのか、其樣なことは一向知らず、考へずに耕作して居る。」と、これだけであります。唯だ、これだけではありますが、此簡單な言葉に私は大層得る處のあつたやうに思ひました。

これは啻に小農に限らず、多くの人は唯だ〳〵其日〳〵のことに追はれて、殆んど夢中に、何の考もなく、年首から年末までを過して居る。斯く申す私なぞも屢さう感ずることがある。斯う云ふと、嘘のやうだが、眞實のことです。これが嘘でなくて、眞實のことであるのは、諸姉、胸に手をあてゝお考へになれば、直ぐ御判りのことゝ思ひます。

これが我國今日の有樣です

試みに諸姉、我帝國の面積を御承知ですか。恐く御承知の方は、餘り多くはなからうと思ひます。

我國は、南は臺灣から北は樺太に到るまで、長さは隨分長いけれども、其面積は凡二萬八千方里に過ぎないのであります。此二萬八千方里の間に、米作地は、何れほどありますか。それこそ、愈々御承知の方は少なからうと思ひます。

米作地は二百八十萬町歩で、其收穫は四千六百萬石、又、麥作地は百八十萬町歩で、其收穫は二千萬石内外です。其他大豆、小豆、粟、稗、黍、蕎麥等雜穀の收穫は合せて千三百萬石、甘蔗、瓜哇薯等の薯類は總計八億三千萬貫匁に過ぎないのであります。

これだけの收穫が果して我國民全體の食物の量として充分であるか、何うであるか。諸姉お解りですか、何うでせうか。それも伺ひたいのです。

我國の人口は約四千七百萬人ばかりあります。これだけの國民全體の食物の量は隨分少くないことゝ思ひます。然るに元來我國民は米を常食として、麥や薯類は少許しか食はないのであります。で、其分量は昔から一日一人分凡そ五合と云つて居ります。軍隊では何うかと云ふに一日六合で、老人や小兒でも矢張三合五勺位は食べるが、近年は肉食も盛に行はるゝ樣になつたから、先づ平均一人に就き一ヶ年一石五斗と見積ても其石高は、實に八千萬石となるのであります。然るに我國の耕作土から生産する米麥は上作の時でも七千萬石を超ないのみならず、其内、酒、味噌、醤油、其他に費す處も少くはないのです。ですから、止むを得ず、外國米を輸入しなければならないやうなことになつて居ります。その爲めに年々數千萬圓の大金を外國に拂ふのであります。これが、我國、今日の現狀であります。この現狀を御存知の姉妹は、そんなに大勢はおるまいと思ひます。

不足の米を何うするか

それも平和の時であれば、金さへ出せば買ふことも出來るのであります。が、萬が一にも、輸入米を供給して呉れる夫等の國と戰端を開く樣なことが起つた場合には、全く兵糧責に遇はねばならぬことになる。その上我國の人口は年々五十萬人位づゝの割合で殖えて行きますから今後百年も經てば、增加する人口ばかりでも五千萬に上る譯であります。現在でさへ不足な米穀、左樣なつたら、何うして求めることが出來ませうか。これは大いに考へなければならぬことであります。こんなことは、實に詰らぬことのやうですが、質樸な地方に生れた婦人で、勉強のために東京に來て居るうちに、何時しか都の風に染みて、土臭い田舍が厭になつた、なぞと云ふやうな實話を、往々耳に致す今日、時偶には、此種な方面のことを本誌に掲げるのも無用ではなからうと、御存知のお方には、多少の御迷惑はあるかとは思ひながらも、殊更に掲げたので御座います。

臺灣から樺太までの我が愛國諸姉。萬望、眞面目に、斯う云ふことを偶には考へていたゞきたい。斯う云ふことを眞面目に考へるのが、愛國婦人たる義務であらうと思ひます。

東西婦人の性格

法學博士　寺尾亨

個人主義の盛んな佛蘭西の婦人
米國の婦人を眞似ろ日本の婦人
日本婦人の鑑とすべき英國婦人

女子の人格は、佛國を除くの他、英國にても獨逸にても、男子と結婚せし以上は、男子の許諾なくして獨裁することの出來ぬことゝ、法律上定められて居るが佛蘭西は個人主義の盛んな國であるから婦人の財産に就いては自由に處理することが認められて居るばかりで、一家に對して、男子以上の主宰權は認められてないのです。

日本の法律でも、歐洲の制度に鑑みて婦人の權利を保護して居るが、決して婦人のお轉婆的狂亂を保護して居らないで多くは男子の主宰の下に、其動作を爲すべきことゝなつて居る。

今日の日本婦人に、新文明に浴したる身なることを誇稱して、舊時代の舅姑を蔑視し、男子の收入をば全部奢侈に投ぜんと試みるものが無いではない。が、これは米國婦人を眞似たのであらう。米國は新開地であるから、日本で云へば北海道の如く、比較的女子の少き國である男子は生存に忙殺さるゝがため、學問や修養する暇はないが、女子は内に在つて家庭を自分の領分とする故、男子よりも學問の修養を積むことが出來る。

歐米婦人と日本の婦人

斯う云ふ理由で、一般から見れば、米國では、男子よりも女子の方が學問がある。斯う云ふ理由があるから、米國では女子は男子を凌いで我儘のことをする習慣となつたので、日本へ來住せる米國婦人の如きは、男性的生活を營みつゝ、益す我儘を成し遂げんとするのは多いやうである。故に其品性と云ひ、風采と云ひ實に有難からぬのが居る。日本では斯る婦人を見聞することは、大の禁物とせねばならぬ。

これが英國婦人であれば、我儘の獨り歩きなどはせず、唯管家庭を圓滿にするに努め、男子を凌いでまで、一家を主宰することなく、勤儉力行を爲すに怠らないのである。

また、獨逸婦人も、英國の婦人に次いで地味な國柄で、米國のやうに跳梁的婦人は稀れなのである。

日本の家庭にては、他の國を例として模倣せんと努めらるゝが、成るべく善良な英國風を採られたきものである。例を擧ぐれば、娘を一人歩きさせることの如き、晝夜とも嚴禁とすべきことであつて社會の片隅に絶えず間違ひの起り易いのは、家庭が放縱な弊害より來る結果であるから、是非共女大學的嚴格な保護を子女に與ふべき義務があると信じます。

▲皆さまにお斷り▼

新懸賞募集の結果を此號にて發表すべき處都合により次號に延しました何卒その思召しに願ひます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恐ろしい朝鮮の一夜

男爵夫人 目賀田逸子

目賀田男爵夫人は、有名な勝海舟翁のお娘であらしやいまして、一時韓國で骨をお折になつた、唯今では貴族院議員男爵目賀田種太郎氏の御夫人で御座います。御夫人も、其人の男爵と御一緒に、韓國に御出のこともありましたので、お忙しい處を此お話をお伺ひに参じたので御座います。處が、江戸ッ子氣象のさつぱりした男爵夫人は次のやうに、氣輕に面白くお話し下さいました。(千葉子)

四十年の暴徒騷動

朝鮮の珍しい面白い話と云はれても、これと云つて別にお話申し上るやうな事はありませぬ。

今でも忘れませぬが、私の丁度朝鮮に居りました時で御座います。大變な騷動がありました、御存知でせうが、彼の四十年の暴徒の大騷動であります。あれは確か七月十九日であつたと思ひます。私はそんな騷動が起つたとは些しも存知ませぬから、町の方でドン、、と鐵砲の音が致しますので、——よく彼國では井戸を掘るのに地が固くて下が岩であるのでダイナマイトで地を掘り下げますから——私はまた何處かで井戸普請が始つた事と思つて居りました。さあ、さう致して居りますうちに、鐵砲の音がだん〱激烈なつてまゐりましたからして、これは何か騷動が起つたに相違ないと思つて居りますと、果して暴徒が起つたと云ふ事が直ぐに解りました。なんでも林(伯爵)さんのお出になると云ふあの翌日でしたと思つて居りますが、そりや、ひどい騷動で御座いました。檄文を所々に張出したり、暴徒は町の諸方に集合したりして居りますので、今に何うなるかと思つて居りました。

彼方でも此方でも鐵砲の音

鐵砲の音は彼方でも此方でも斷へずに致します。その騷動と云つたら、眞實に恐ろしいものでした。私は其時に初めて戰爭の樣子を實見致しました。私共の處から南大門は直ぐ近くであつて、さうして私共の住居をして居りました所は舊獨逸の公使館であつた建物でありました、おまけに高い所でありましたから直ぐ眼下に見えるから、双眼鏡で向ふの方を見渡しましたが、手にとるやうには見えませぬでした。併し、向ふの方から負傷兵を擔荷に乘せて私共の前を通るのを見ますと誠に氣の毒でたまりませぬでした。

これは日本の方から打つたのでせう。速射砲の音が暫時の間聞えました、さうかと思ふと何だかさつぱり解りませぬが大きなこう何か爆發したやうな音が致します。また時々鬨聲が聞えますから、その度毎に恐いもの見たさに硝子窓を開けて見ます。こんな事は迚も内地では見ることは出來ませぬです。今思ひ出しましても、あゝ氣の毒だと思ひますのは私共の家から僅か二丁程向ふの方から日本人や朝鮮人が負傷をして、血だらけになつて擔荷に載せられて行きますのを見ましたが、若し自分の子があんな負傷をしたのを見た親はどんなでせう、韓人も可哀さうですが、同じなんでも日本人の方がよけいに可哀さうになりました。朝鮮人だから別に憎いと云ふことはないのですけれども、人情と云ふものは妙ですよ。もう日本の人は通つて仕舞つたからして、朝鮮人はさほどでありませぬから、近くに往て見ませうと思つて門を出て見ましたが、皆ひどい負傷をして居る人たちばかりで實に出ることは出ましたが、何とも云へない氣が致しました。

恐しい危い一夜

その夜の十時頃でありました。電話がかゝつて參りまして、愛國婦人會の人に來て貰ひ度いと云つて來ましたから、其處で私は世話をするつもりで仕度を致して參りました。他家の夫人方をも誘ふて一緒に來てくれと云ふことでありましたが、若も途中でお負傷でもあつてはそれこそすみませぬから、私ばかり參ることに致しました。何を申しますにも夜の十時でせう。そして、そんな恐ろしい大騷動のあつた夜ですから、「恐いこと」云つたら隨分危險ない夜でした。町の通りは皆どの家でも戶を堅く締めまして、人一人も道を歩るいて居るやうな影は見えませぬ。一體朝鮮人でも亦支那人でもさうですが、平常は餘り日本人みたいに活潑ではない。道を歩いて居るのを見ましてもノソ〱と、ほんとに腹の立つやうな歩行方をして居りますが、併しこう云ふ場合にはなかなか油斷は出來ませぬ。どうしてなか〱敏捷いことをやります。こんな時に夜遲く病院に行くのは隨分危險なことです。どうして參つたかと申すと、人力に乘りまして後前に人をつけて參りました。目賀田は危險だから自分の仕込杖をもつて行けと申しましたが、若しも途中で朝鮮人にでも出合つて、どんな機會に此方の有つて居る杖を取られんとも限らんから、その時に却つて自分の用心に有つて行つたもので此方が切られたり、又負傷でもするやうなことがあつたら、それこそ馬鹿氣て居りますから、私は太い丈夫な杖をもつて行つて若も道で出合つて先きが亂暴でもすれば思ふさま打ち擲つてやるつもりで用意して參りましたが、よい鹽梅にそんなこともなくして行きました。負傷をした人が二十五人程あつたと思ひます。病室と申しましても、實に不完全なものです。とても内地の病院とは比較にはなりませぬ。まだ血だらけになつて居る負傷者もありまして、彼地に居ります親戚の者等が皆來て世話をしてやつて居ると云ふやうな風で、私は十二時餘程過ぎて歸りました。

韓國平壤大同門

熱い時分の負傷兵

七月の熱い時分でありますから、なかなか病院に居るのも苦しかつたのであらうと思ひます。皆負傷した人たちのことで御座いますからなにを持つて行つてやると云ふこともなりませぬから、ハンカチーフに香水を持つて行つてやつたり、家からアイスクリームを拵へてやつたり、また病院の方でも急に負傷兵が這入つて來たのですから、人が足りないでせう。それですから手術の時等は痛がるのをウンと力を入れて抑へて居てやつたりして手傳つてやりました。その手術の時のことを思ひますと、實に今でもたまらなくなります。腕を切つて仕舞ふやうなのもありませう。また腿の邊を抉取るやうなのや、其外頭と云はず顔と云はず身體と云はず、それは〱ひどい負傷をした人等の手術と來ては實に見て居られない位でした。

愛國婦人會から、私をはじめ鶴原さんの夫人や、其外の方と七八人位づゝで、毎日病院に行つて、いろ〱と世話を致してやつたのでありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

浮世眼鏡

女醫の試驗に合格された長谷川女史
獨立の決心は許嫁の良人に別てから
飽迄もの初一念は遂に成効の榮の冠

長谷川まき子

長谷川まき子女史は今秋文部省の醫術後期試驗に好成績で合格し、女醫の榮冠を戴きたる婦人の一人で御座います。當時都下の一新聞の如きは「男も及ばぬ決心」なる題目を掲げて其成功を世に紹介致しました。まこと纖弱なる婦女子の身を以て、斯程の難關を切り拔けるには男も及び難い決心と、意志の强固を要するは申すまでもありますまい。が啻にそれ許りでは何となく私共の腑に落ち兼る所があるのでした。

時世の進步した今日とは申しながら矢張り女は女――嫁して一家の妻となり母となつて內助の功を上げるのが普通婦女子の希望でもあり、また道でも御座いませう。それを自ら好んで世に獨立しようといふには何か他に深い理由があつてゞはないでせうか……好奇とは云ひながら何となし心を引かるゝまゝに、私は一日市ヶ谷なる東京女醫學校に女史を訪ふて親しくそのお話を伺ひました。

運命の神は、いつも悲しい淚の痕をかよわい人の胸に刻んで苦しめるのです。今袴の膝に端然と手を重ねて語る女史も矢張り薄倖の數には漏れぬ女の一人なのでありました。

▲許嫁の良人に死別

「醫學に志したには別に之といふ動機があつたのでは御座いません。つまり境遇の爲にかうなつたので御座いませう」と女史は語り出でた。

「父は私が二歲の頃から精神病に犯されまして、八歲の時遂々死亡なつてしまひました。ですから私は幼い時から母の手一つに育てられて成長しましたのです丁度私共の遠い親類に平尾といふのが御座いました。それと私とは幼い時から許嫁の約束に成つてゐましたのですがその平尾といふのが醫者で御座いまして――あれは私が廿歲の時分でも御座いましたらうか、九州大分縣下のある病院に勤めてゐました平尾が、兎角に身體が弱いから介抱に行くやうにと親類の者に云はれましたので、三十二年の九月私は九州に參りました。それから色々と心を盡しましたが甲斐も無く、翌三十三年の七月腎臟炎で亡くなつてしまひました……」

△初めて獨立の決心

「兎も角も後片附を濟して故鄉には歸りましたが、一度生れた長谷川の姓を出て平尾を名乘りましたからには、何處までも獨身で通し度いとはその時にもう決心しましたので、それには、女の力の及ばないながらも平尾の業を受け繼がうと、そこで初めて女醫志願を思ひ立ちましたけれどもその時分はまだ、女醫學校と云ふものを知りませんでしたから、三十四年日本赤十字社に入り、三十六年一月卒業しまして、その年の三月初めて當校へ參つたのでした。

ところが、三十八年の日露戰爭當時、赤十字社の命で大阪豫備病院に勤務してゐました中、過度の勞働した故でも御座いませうか、烈しい肋膜炎に犯されて一時は危いとまで思はれたので御座いました。その時平尾と長谷川と双方の親類で協議の末、死後の都合が好いやうにとの考へから、ふたゝび私は平尾から生家の長谷川に復籍する事になつたので御座います。

けれども、病氣はそれから漸次輕くなつて、前後約四十日位で全快致しましたそれから名古屋の休養所で一ヶ月許り保養致し、後大阪に歸りまして一年半ばかり豫備病院に勤務致しました。

それからふたゝび當校に歸つて、ずつと今日に至つたので御座います。」

と、女史は靜かに語り終りました。

△初一念は飽迄も

「それで、今後はずつと東京にお在でゝ御座いますか」

と聞くと、

「えゝ、出來ます事ならば東京でどの考へで居ります。

無論、前申上げた事情から身體だけは生家の人となりましたやうなものゝ、心持は矢張り昔も今も變りは御座いません及ぶだけは力を盡してとの決心では居りますものゝ、それでもね」

と言葉を切つて俯目に暫し、

「是迄は先生達のお蔭でどうにか迷はずに參りましたものゝ、今後はどうなります事やら……」

云ひ終つた女史の顏には、何とも云はれぬ寂しい影が動いてゐました。私は切に將來の成功を祈つて暇を告げました。

怪談　旅僧の一念（上）

ひつじ

何も話の種として、或る友人の話をその儘、一場の怪談を書いて見る。眞僞は素より保證の限りでない。

怪しの旅僧

房總沿岸の漁村とのみで、村の名はわざと預かる。或る日の夕方、此の村端れをトボ／＼と步いて居る一人の旅僧があつた。生憎不漁續きの折柄とて、僧は例の有難いお經の文句を誦へながら、一軒／＼隨分根氣よく步いたけれども、一文の布施は愚か、一飯の供養にもありつけなかつた。旅僧は朝から殆んど絕食の姿である。餓えたる足の力なく、愈々此の村を去らうとした頃には、暮るゝに早き秋の日はトップリと暮れ果てゝ、雨もよひの冷めたい風が、汚れちぎれた旅僧の衣を吹き捲くるのであつた。

旅僧は幾度が立停つて長い／＼吐息をついた。行衞定めぬ雲水の身の、野宿位は覺悟の前であるが、何しろ朝から一食をも口にしないので、その苦しさは一ト通りでない。僧は喪家の犬の如く、足に任せてたゞ步いた。

沖が荒れると見えて、物凄い海鳴りが刻一刻と近く聞える。漁師の家ではどこでも夕飯の最中で、海を住家の荒くれ男共が、女房や子供を相手に盛んに箸を動かして居る。無駄と知りつゝ僧は幾度か辭を卑くして一飯の施與を願つた。けれども心冷めたき村人は、誰れ一人顧みる者もなかつた。旅僧は餓えと疲れと失望のあまり、今はもう口を利く元氣さへない。僧は再び默々としてたゞ步いた。

行く程に――地藏堂の前から左に折れて、だら／＼坂を海岸に出やうとする所に一軒の藁屋があつた。覗くともなく漏れ來る燈火に透かして見ると、三十年輩の婦人が、赤坊に乳を啣ませながら一人で夕飯をしたゝめて居る。――旅僧の食慾は烈しく動いて、堅くるしい佛者の持戒は、餓え疲れたる旅僧の心まで縛る事が出來なかつた。僧はどう／＼我慢しきれなくなつて、表戶をガラリと打ち開け、案內も乞はず室內に闖入した。

唯だ一箇の團飯

驚く婦人の前に手をついて、旅僧は詳しく今日の一什始終を話して、切に一夜の宿を願つた。婦人は默つて旅僧の物語に耳を傾けて居たが、やがて汚ない財囊から五錢の白銅一箇を取出して、誠に御氣の毒の次第ではあるが、此の村の規約として、何分緣もゆかりもない旅の僧を宿める譯にはゆかぬ。それに今日は生憎と亭主は朝から漁に出て、未だに歸らぬ處であるから、一刻も早くこゝを立去つて頂きたい。是れは甚だ些しではあるが……といつて、件の白銅一箇を旅僧の前に差出した。

けれども旅僧の求むる所はお金ではなかつた。飢餓と疲勞の爲めに、僧は最早一步もあるく勇氣がないのだ。僧は白銅を押返すやうにして、せめては一飯の施與を願つた。婦人は暫く躊躇して居たが、よく／＼氣の毒に思つたものと見え、急いで大きな團飯を拵へ、それに澤庵漬二切れを添へて旅僧の前に差出した。

お禮の言葉より先に旅僧の手は團飯を攫んだ。そして急いでそれを自分の口に持つて來た。光りなき旅僧の眼は幾度となく白くなり、黑くなりした。婦人は同情の眼を以て面白さうに旅僧の樣子を見成つた。五口――六口、團飯は瞬く間に一粒も殘らず退治られて了つた。僧はホツトー卜息吐いた。

けれども――けれども、朝から絕食の旅僧に取りて、一箇の團飯は僅かにお茶一服の息繼ぎにも足りなかつた。僧は、

『御好意に甘えて濟まないけれども御親切序でにどうぞ團飯をもう一つ頂戴したい』

と願つた。婦人はちよつと飯櫃を覗いて見たが、

『亭主も、若い衆も未だ喰べないのですから、眞實にお氣の毒だけれども……』

と言つて斷つた。旅僧の顏は失望を以て滿された。

隣村までは四里餘りもある。よし五錢の白銅はあつても明日の朝までは何物をも口にする譯にはゆかぬ。――無理とは知りつゝ旅僧は三度び辭を卑くして哀憐を願つた。二言目には淚がホロ／＼と旅僧の頰を傳はつて流れた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

母の舌

巖谷小波
日野巌林　合譯

四

『コンヨック！』と、俄に大聲で叫んで、

『貴樣は、それじや今後又人殺しはせぬだらうねえ!?』

『はい。人殺處では御座いません！私は、斯うして、もう自分を產んで下すつた母親迄嚙み殺した大罪人で御座いますから、もう、もう如何樣な事あつても現世へ生き長へて居る事は出來ません！神樣が御恕し下さいません！裁判長閣下！何卒一分時も早やく御處刑なすつて下さいませ！折入つて御願ひ致しますで御座います！』

裁判長は、然う言ふコンヨックの顏を凝乎と見詰めて居られましたが、

『コンヨック！神樣は、決してその罪を悔ひ改むる者は、御咎め遊ばさぬよ！本官は、確に君が善心に立ち歸へつた事を認めるから、特別の恩典を以つて無罪にするよ！今迄の宣告は取り消しだ！――コンヨック君！無罪放免!!』

と、聲に力を入れて叫ばれました！――

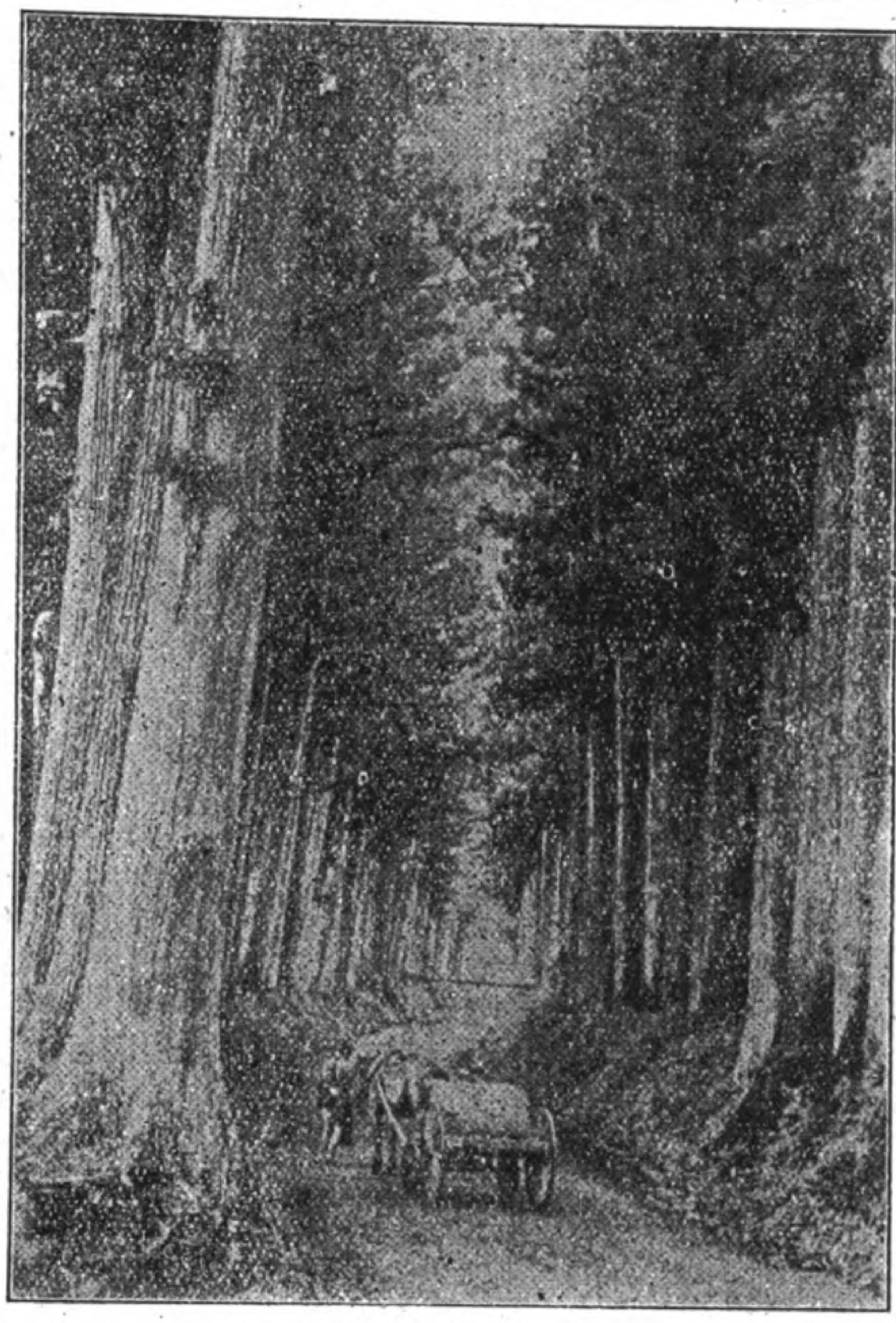
――コンヨックは、自分の惡い事を悟つて眞に改心致しましたから無罪になつたのであります！

御主人は、コンヨックが無罪放免になつたと知つて大層喜びました！

＊　＊　＊　＊

十年の後、ベルリン市に大火事があつた時、コンヨックは災厄に逢ふた不幸な人々に對して、百萬圓の救護金を寄附しました。彼は其僅か十年の間に、一生懸命になつて、正直に、實直に働いた効能あつて、大層お金を貯めて、立派な、百萬圓位平氣の平座で寄附し得るやうな大實業家になつて居たのであります。（完）

（第百八十六號に此の御話の「三」があります）



日光街道の秋

斯すれば眼が美くなる

畑眼科院長　畑晴五郎

眼つきの惡いのは世渡りの損
斜視は手術で立派に癒る
一度癒れば二度手間は決して要らぬ

人は一口に目鼻立ちと云ふが、目付の惡い程いやなものはない。古から眼は身の光なりと云ふてある。又川柳にも氣があれば目も口程にものを云ふとしてあるが、兎に角目付の善惡は處世上の損得に大關係があると思ふ。

されば治すことの出來るものは治すべき必要がある。最も量見が惡い爲に目付の惡いのは小生の治療範圍以外である。美眼術とは名稱の如く、眼球、眼瞼、眉毛を美觀にする手術の謂にして是に屬するものは(一)斜視、(二)義眼及び義眼箱入に關する手術、(三)搭刺法即ち入墨術、(四)眼瞼の成形術、(五)眉毛の移植法、等である。

▽斜視の治療は至つて容易なり

斜視或は斜眼は國々によりて名稱を異にして居る。東京、大阪、東北地方にては「ヤブニラミ」、又は、「スガメ」と云ひ、四國にては「ヨコメ」、九州にては「ヒガラ」又は「キシネラミ」と云ふ。斜視を區別すれば、內斜視、外斜視、上斜視、下斜視であるが、同じ內斜視の中にも單純の內斜視と左右交代の內斜視とがある。外斜視に於ても單純の外斜視、左右交代の外斜視とがある。又上斜視兼外斜視或は上斜視兼內斜視等種々ある。そこで斜視を不治の如に思ふ人が未だある。然し今日は手術が大に進歩して、斜視は必ず全治すると云ふてもよいのである。唯年齡の長じた極めて高度の外斜視は手術が困難であるが、其他の斜視は實に容易に治ほるのである。最も誰にも容易と云ふのではなく、熟練したる眼科醫ならばと云ふのである。凡そ手術、特に美眼術の如きは恰も仕立屋が仕上をすると同一で、如何樣に裁ち、如何樣に縫ふかと云ふことは、仕立屋と名の付く人には分つて居るが、其の裁ち工合と縫ひ工合で著しい差が出來るのであるから、此處で一番熟練を要するのである。內斜視は手術を受けた後に外斜視になつた例を見ることが時々ある。御手習の手術は隨分恐ろしいのである。

斜視で目付を區別する時は內斜視はきつぎつしくて意地惡く見へ、外斜視はとぼけて見へ、上斜視は人を睨んだやうに見へ、下斜視は茫然として遲鈍に見える。通例、素人が「ヤブニラミ」と云ふのは、大抵內斜視であつて、彼の人は何處か目付が變だと云ふのは外斜視に多い。

▽斜視の治療は身體に害なし

斜視の手術を考へ出したのは英國のチヒロルと云ふ人で、時は千七百三十年のことである。其後いろ〳〵の變遷を經てグレーフエー氏に至つて百發百中の確實な手術を發明したのであります。

然るに假令全治するにしても手術に疼痛があつては氣の弱い婦人や小兒には困難のことであるが、目下は局處麻醉藥といふ重寶なものがある故、これを用ひれば些しの疼痛もなく手術が出來る。その上手術の時間も約三四十分以內で癒るから、少しも苦しいことはない。その上一回の手術で全治する。

斜視の手術は身體に害はありはせぬが、又視力を害しはせぬかと問ふ人もあらふが、決して其樣なことの無いばかりでなく、結局利益と愉快とがある。

最善の脚氣治療法

（特に栗山博士の一讀を煩す）

東京催眠心理學會長　津川家立

一、僞りなき實驗の事例

本紙百八十六號に於いて「斯う云ふ療法を採れば脚氣が屹度癒る」と云ふ栗山博士のお話を承つて、私は深く悅しさを感じました。實に私が久しい日月の間、實驗研究し來つた事實が恰も此醫學博士の口によりて世間に發表されたるやうな心地がいたしましたので、云ふに云はれぬ快感を惹き起したわけであります。

私は醫者ではありません。したがつて醫學上の何等の智識を有しません。もとより脚氣と云ふ病氣について醫學上の何等の説明を與ふる權利を有してゐません。しかし醫者にあらずとも、病氣の治療をなすには醫術を應用せずして、他の方法にあるとも敢へて差支へなきものと信じます。博士も此を御承認下さるものと信ずるのであります。而して私の身分は女子教育の任にあるもので、且つ催眠心理學を專心研究しつゝあるものでありまして、私の僞りなき實驗上の事例を擧げて醫學者及び病氣治療の任にある者の參考にいたしたいと思ふのである。

二、三年前よりの脚氣三回の施術により拭ふが如く全治す。

此實例は十八歲の婦人。九月二十二日來りて私に心理治療を乞ふ。醫師の診察によれば、三年以前より脚氣にかかりゐたりとの事、兩足脚部、水腫をもちて肥大してゐまして、拇指を以つて押しますと非常に凹んでしまふのです。脈搏は八十六。施術後七十二に減じました。

九月二十三日の午後來りて申しますに、「今日は朝久しぶりに體操の時間に出席しました。いつも動悸烈しきに、今日はそれさへ更に覺えず、氣分よろしく足は甚だ輕く感じました」と云ふ事、かくて第二回の施術をしました。

九月廿五日、第三回の施術をしました。(一寸度ことはつて置きますが、九月二十二日以後やはり醫者の藥を用ゐつつあつたのです)。「二十六日に醫者に行き診察を受けました。其醫者非常に怪しんで丁寧に診察をし、『どうかしたか』『いいえどうもしません』『それにしては實に不思議だ』と、首を傾けてよく〳〵考へ込んでゐられました。それから、藥はもういらぬ脚氣は全治してゐるとの事でありました」。とは、此婦人が二十八日私宅に來ての話でありました。實に三回の施術によりて三年間の脚氣が全治しのであります。

三、五年間の脚氣四回の施術にて全治し、直に土佐に行きて海水浴をなす。

此實例は二十歲の婦人。五年前より脚氣にかかり、例年夏期に向へば、烈しく苦しんでゐました。避暑休暇に鄕里に歸らむとすれば、醫者はその途中の危險を慮りて容易に許さず、かくて私に施術を依賴してまゐりました。

試みに患者の狀態をみるに、脈搏は九十を打ち、心臟の鼓動烈しく、患者は今劇しく頭痛がすると云ふのです。第一回の施術は案外に奏効して脈搏は八十二となり、動悸をさまり、頭痛また拭ふが如きありさまでありました。

第二第三回と施術をして殆んど脚氣の徵候を認めません。念のため醫者の診察を受けるやうにすすめておきました。其翌日、來まして醫者は此分なら國に歸りても差支へなからうと云はれたとの事。その日第四回の施術をして別れました。

別れたる翌日即八月六日に東京をたつて鄕里土佐に歸りました。十日ばかり過ぎて此婦人よりの消息に「途中少しの障りも候はず、歸りつきてよりあまりの暑さに毎日海水浴をのみいたし居候へど別にさはりたる事も候はず云々」と。

四、全治せざる例なし。

以上の他、或る時は、衝心するのおそれあれば、來てくれと云ふもの、或る時は車にて來るもの、數多けれども、全治せざる實例はありません。たゞ効果なきものは、感應甚だうすくして、たゞ一二回の施術に止めるものがあります。斯くの如きは、もとより全治せざるものであります。多きは十數回、少きも、三回、被術者に熱心さへありますれば、必ず全治するものと確定されるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋と冬　森こつか選

俳句

天　横濱　上杉らく子

雨折りく盥を叩く夜寒かな

評　夢から覺めた儘に眠られず

地　京都　はつ女

花結ひならふ小春のすさび哉

評　妹二人姉と並べり

肥後　有本その子

朝寒や胸かき合す持佛堂

評　亡き子の冥福祈る勤行

人　武藏　松本和子

あきの風酒の落武者吹きにけり

評　四途路もどろの人の足なみ

新米や此のごろ狂ふ釜加減　本所　赤澤淑子

秋晴や運動場に人群る丶　長門　薦田眞子

大根の赤葉を滑り野の小川　山城　中　とみ子

柑子むく椽の日向や小六月　京都　はつ女

徘徊す避寒の人や蜜柑山　同　今井よし子

木枯の渦巻上る落葉かな　備後　世羅龜子

赤々と柿て取巻く在所かな　神戸　坂本崎子

木枯や神殿に砂を吹きつくる　横濱　らく女

朝寒や高瀬を下る高瀬舟　京都　白百合子

匿名で呼ぶ落胤や椿の宿　本所　赤澤淑子

木犀の香に針の手を休めけり　東京　松本保子

寒月や野路に汽笛の響きけり　同　西村鶴子

菊召せと小原女呼ぶや朝期　同　大橋正子

日の名殘照す千入の紅葉哉　同　中山由子

磯の松見ゆる見えさる秋霧かな　尾張　榊原花代

里の女の落葉かきけり暮る丶秋　岡山　西村長子

奥山や思ひ寄らずや菊の咲く　東京　小山季茂

子等までも穗を弄ぶ里の秋　佐賀　小林龜子

和歌　行く秋

天　京都　但村初子

來む年はいつ丶になると埋火にかさし給ふが美しきゆび

評　この秋の公設展覧會の大觀畫伯の畫やうにて

地　越後　松永しげ子

花めせと紫苑いたきて笑ふ子の白歯をふきぬ秋の朝風

評　例へば月新畫伯の畫想と云ひべくや

人　岩代　西山佐保子

人のわたるおとはかりして板橋のありかはみえぬ川の朝霧

評　これは水彩畫の趣あり三宅氏の筆意か

秀逸

久方の月の光もなのみにて雲まよふ空に秋そくれゆく　函館　五十嵐やす子

野邊わたる風にさそはれもり啾の遠くなりゆく秋のくれかな　神奈川　足立原とく子

秋の日の夕日うすれてみやしろの前に淋しくちるこのはかな　横濱　後閑らく子

高瀬川下すいかだのほかにまたちりし木の葉の舟ぞ流る丶　岡山　森島古野

さと散りてわくら葉窓に寂しの夜一間越には蛬の音そする　武藏　松本保子

天高き秋の野山にひ丶くなりみいくさならす大砲の音　岩代　西山佐保子

馬引きて田子歸りゆくたそかれの目黒の里にそ丶くむら村　東京　望月米子

大峰の銀杏なりく散る見へて淋しくはゆる夕日かけかな　千葉　宇佐美こま子

やれかきにたゞ一本のまさり草あけくれ咲かん花そまたる丶　福岡　松野みさを

夢に見て今は世になき友の上思ひいて丶そしのひ音になく　京都　白百合子

妻やこふ夜さむやわふる聲たて丶枯野の月にさなしかのなく　廣島　金原直子

萩す丶きうらさひれゆく秋の野にあはれいやます蟲のこゑく　豐橋　平松いと子

奥山の雲は通らぬまろき橋人わたる見ゆ紅葉するころ　東京　清水まつ子

ときはなる松のかけよりなかめてもくれゆく秋の月の淋しさ　横濱　鈴木まつ子

曉を告げにし鳥のあと丶めて藁屋の霜は眞白なりけり　山城　中　とみ子

つくろはぬ垣根のもとにほひそめし花ちいさくらゆかし白菊　岐阜　なか子

ほろくと夜半のしくれにさそわれて庭のさ丶くり落つる淋しさ　三河　山内經子

朝な夕なへかまあらふ瀧川のみきはにもみち流れ來たりぬ　本所　中山由子

きりこめてそこともわかぬ谷あひにつまこふしかの聲そかなしき　岡山　西村長子

きせ綿に包めぬ菊の香をは君に贈らん玉章にして　備中　林　秀子

初酉の今日にもあるか商人の肩のくま手も勇ましきかな　東京　土師利根子

父が植えし庭の白菊咲きにけり昔を思ふ夕くれのやと　同　小山季茂

雜誌の雜誌

雜讀一目

▲高等教育は不必要

東京高等商業校長　澤柳政太郎氏

女子が高等教育を受けると、徒に氣位が高くなつて、普通の所には縁付かうとは云はぬ。自分は大學教育を受けたものであるから、良人も大學出身でなければならぬとか、又田舍の土臭い男は嫌だなどと言つて、東京で配偶を求めやうとする。それでなかなか適當なものが見付からない。其内には色々の誘惑に陷り、或は煩悶の極、自暴自棄して墮落する。若し高等の專門教育を受けなかつたならば、早く良縁を得て、幸福の生活が送られたらうに、と思はれるやうな例は澤山ある。要するに高等教育は結婚し得ない不幸の婦人だけに必要で、結婚し得らる丶婦人は目下の所高等女學校程度で甚だしい不便を感じない。唯だ此程度を今少し高めれば更に宜しい（「婦人畫報」十一月號）

▲鐵の堅實と玉の皎潔

府立第三高等女學校長　小林盈氏

實用だの、經濟だのといふ事にのみ馳せて了ふと、趣味とか品格とかいふものが滅却されて、遂に野卑に流れ殺風景に陷る弊がないでない。故に一方に於ては玉の如く皎潔に、高い奥床しい人格をも備へなければならぬ。乃ち鐵の如く丈夫で實用に適する、反面に於ては高潔にして玉の如き品質を存し、始めて一家の主婦たる職務も盡し得らる丶のである。お座敷に出ては立派なお奧樣となり、奧樣となりて應對も巧みに、極めて氣高い人物となるけれども、勝手元に於ては襷がけで料理を調へ御飯も炊けるといふ、兩方の能力を備へなければ、完全なる文明婦人とは認め難い。故に鐵の堅實と玉の皎潔とを備へよと云ふ（「大和撫子」十二）

▲麝香とは何う云ふものか（「姉妹」一の六）

藤水

麝香は麝と云ふ鹿の一種が、その體の中に貯へて居る芳香劑で、麝は支那、西藏、東京、西伯利などの山中に棲む獸ですが、性質が至つて怯懦ですから、常に深く林の中に隱れて居る。が、今では捕獲される數も多く、各地方から英國へ輸入されるものだけでも、一萬オンス以上あると云ふことです。これだけの麝香を取るには數千匹を殺さねばなりません。麝香は俗に麝の臍であると申しますが、いかさま臍に一の嚢があり、それに麝香が溜入つて居ります。

▲巳の重さを知る象の智力（「新公論」十一號）

獸醫　入江濤吉氏

象は智力が大に進んで居るから、甚だ用心深い。彼は自分の身體が七八百貫から千二三百貫目あることを自認して居る。余は動物園で面白き實驗を持て居る。曾て象の部屋が餘り破損したから床板を新たにした處が出來上つて象を新床の部屋に移さうとすると、象は何うしても室内に入らぬ。それは此板床は自分の重量に耐ゆるや否やを疑ふて入らぬのであつた。

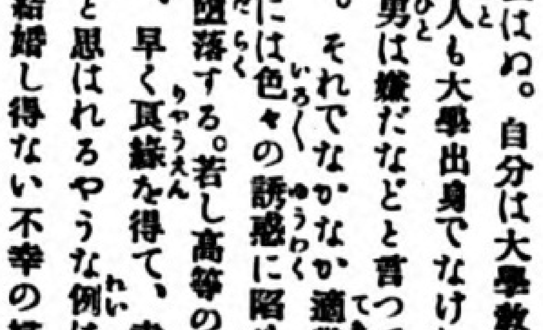
いろいろ

□手紙雜誌　古人今人の手紙をいろく面白く集めた體裁の好い極く凝つた雜誌です東京府下北豐島郡日暮里村字谷中本千三十八番地手紙雜誌社から發行されます□兄弟、姉妹　東京麹町飯田町五丁目國學院大學出版部から發行されて居る雜誌で「兄弟」は男子用、姉妹は女子用として出來て居ります。いづれも美しい立派なものであります□日曜新聞と云ふ體裁の好い週刊雜誌が東京南鍋町二丁目三番地から發行されました、仲々骨を折て編輯してあります□玉川堂　神田今川橋玉川堂から厚意を以て色紙數十枚を寄贈されました之れに名家の御歌を願つて追々紙上に花を添へる筈です□天長節號　として發行した前號は大層好評があるやうで有難いことに思つて居ります　寵な讀みものには鍋島侯爵夫人、棚橋絢子刀自、物集博士、瀬學士、神戸絢子女史、瓜生男爵夫人、佐々木雪子夫人、法貴すゑ子女史、前田博士等のが御座います□日本女子大學校　では去る十四日斬新な面白い催しがありました午前九時から十一時半まで通俗講演會があり、第一部として香雪化學館講義室にて大澤醫學博士の「家庭叢談」、長井理・藥學博士の「家庭化學のいろく」、第二部として豐明圖書館講堂にて福來文學博士「夢の話」、芳賀文學博士の「もみぢ」、浮田法學博士の「女子教育の話」と云ふ面白い取りくの講演、午後十二時半から四時まで第九回秋季運動會が催され同校獨得の多趣味な種々な運動があり又同時に午前九時から午後五時まで同校生徒の考案に係る敎育展覽會が催されました□日本類語大辭典　東京々橋新肴町十四番地晴光館書店から本邦類語辭典の嚆矢として也有益なる辭典が發行されました目下は特價金三圓八十錢です□伊藤公爵傳　神田駿河臺文明堂から新たに「公爵伊藤博文」及「山家集詳解」が出ました詳くは廣告欄で御承知下さい□瓦斯ストーヴ　神田錦町三丁目の東京瓦斯株式會社の階上には新輸入歐米瓦斯ストーヴを陳列し公衆の觀覽に備へてあると云ふ。

專賣特許　一森式唐椅子

一箇にして安樂椅子となり又寢臺ともなり疊込めば縮小して携帶に便なり

但圖面入説明書篇と御覽の上御使用下被度説明書は御申込次第進呈可仕候



定價

一　エナメル塗布團付　壹臺　金五圓以上

一　エナメル塗更沙布團付　壹臺　金六圓五拾錢以上

一　エナメル塗メリンス布團付　壹臺　金七圓五拾錢以上

製造發賣元　東京市芝區下高輪町廿一番地　電話芝一〇九五番　振替貯金口座一八七六七　樂民堂

特約店　東京、大阪　三越呉服店

同　大阪市西區土佐堀裏町六十八番屋敷　電話（長）西一八二三番　常磐商會

販賣店　東京市京橋區銀座四丁目十三番地　電話新橋六五六番　岐阜提灯毛織物　鈴木店

同　東京市京橋區銀座四丁目十一番地　電話新橋一五六一番　岐阜提灯毛織物　神谷店

同　東京市下谷區上野廣小路　電話下谷五三六番三〇四四番　第二博品館二階

同　東京市本郷區元富士町二番地　電話下谷五七番　南江堂小立商店

同　横濱市住吉町五丁目六拾八番地　電話一〇七二番　杉野洋服店

同　靜岡市札ノ辻町十八番地　杉山椅子店

同　臺灣臺北府前街三丁目　電話二九五番　丸山呉服店

同　門司市東本町二丁目　手塚商店

同　大分縣別府松原通　たまや商店

同　青森市大町三丁目　野崎洋物店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演　文學士　增田惟茂

動物の心

▲アミーバーの心　動物と申すと無論吾等人間も含有して居るのでありますが、今日お話申上げます動物とは吾人を除いた者の事であります。動物にも種々の者がありますが、彼のアミーバー草履蟲の如きは動物中最劣等の者で、肉眼では認むる事が出來ない蟲でありますが、此蟲は或る刺戟を與ふれば必ず之に應じて運動致します。此の有樣を見ますれば、確かに此蟲でも何等かの心がある樣に思はれます。今少しく進化した獨樂鼠と云ふのがありますが、之れを平板の上に置きますと、一度に二三十回回轉を續け位置を變へては廻り、實に回轉の有樣が目覺しい程であります。此の蟲は生來聾であります。

▲ハンスの話　更に進みて、犬や馬に至りましては、大に其心が進歩して居りますが、十九世紀の頃、獨乙にハンスと云ふ名馬がありましたが、此馬は完全に讀み、計算し、又は色を辨別し、殊に軍事上の事を人に傳へたり、美だの醜だの、さては溫暖を別ち得ると云ふ事で、一時獨乙の心理學會を驚かしました。ハンスは九歳乃至十四歳位の小兒の如く、よく推理する事が出來ると迄稱せられましたが、伯林大學教授スツグ氏の慧眼を以て、遂に其誤りである事を看破り得ました。此看破り得ました理由は、心理學上で申上げますと、心理的連合と云ふ事からであります。砲聲を聞けばビックとし、菓子を見れば摘んとするが如き作用は推理の後に起る者ではありません。斯の如く、私等の日常の行動の多は、先天的に或る過去の經驗に由り無意識にスラ〳〵と行はれて行くものでありまして、アミーバーの刺戟を受て忽ち行動を起すのは、其趣が同一であります。

▲山雀の藝　山雀の藝も矢張り同じ理由で葛の葉子別れの如き複雜なる藝をなすは横に貫た器物上の連合があります。門を潜ば機があり、其次に幼兒があり、障子があり、夫に從て運動せる迄で、是には又其飼主の態度に應じ衝動的に行動するのであります。是から考へますと、興味ある三つの事實を得ます。即ち人間の思想は、常に人の眼にては認られずとも、必ず形骸に影響する事、動物の感覺は極て銳敏なる事、彼等の頭腦は空虛なる事であります。

▲獸と人間の差　以上の如く獸には高尚なる精神作用がある樣に見へますが、彼等には何の工夫もなく、智慧もなく、只感覺あるばかりであります。要するに彼等に推理作用がないのは、永久に人間と相隔る事が千里でありますが、彼等には美なる感情がありますが推理作用を經ないので、丸木の儘の感情であります。吾等人間は幸か不幸か、推理作用がありまして、其れに由りて感情に細工を加へるのであります。傲然として大道を濶歩して居る人も靜かに自己心內の黑影を見る時は禽獸と異に處はありません。

文學博士木村正辭　文學博士本居豊穎　文學博士井上頼圀　文學博士小杉榲邨　監修

國文大觀

豫約廉賣　製本既成

御送金の即日送本　見本進呈　◉全十冊　◉紙數七千四百頁

◉此書前記諸大家監修に成り校訂嚴密實に國文書の定本として斯學界に重んぜらる

◉此書元他店の出版にて久く絕本たり弊社之を措み編者に請て再版す

紙質精良特に表裝に美を凝らし模樣高雅金光燦爛之を架上に飾るに實に壯觀を極む

◉文集部　九卷　國文學の古書四十九部を網羅翻刻す　源氏物語宇津保物語狹衣物語竹取物語伊勢物語中納言物語濱松中納言物語落窪物語取替はや物語大和物語多武峰少將物語住吉物語宇治拾遺唐物語今物語鳴門中將物語鳥邊山物語松帆浦物語秋夜長物語吉野拾遺古今著聞集土佐日記蜻蛉日記枕草子紫式部日記和泉式部日記更科日記讃岐典侍日記方丈記四季物語艶詞野守鏡十六夜日記轉寢記東關紀行中務內侍日記徒然草小夜寢覺藤河記庵主無名草子大鏡水鏡增鏡今鏡保元物語平治物語平家物語神皇正統記

◉索引部　一卷　人名地名官有職故實名等に由て其記事を引出す索引也◉名稱下に記事を略記し丁數を附す◉一々原書に照し得て人名辭書歷史辭書等より正確也◉假作人物の傳を求め得◉事柄故事等出典を求め得◉源氏宇津保等の難書も索引と對照すれば註釋書を要せず◉其他應用廣し

◉國

文は國家の精髓なり文學者教育家美術家宗教家實業家

官吏紳士淑女苟も國民を代表する者は必本書一部を備ふべき也

定價　廿圓

豫約價　十一月卅日限　一時拂拾壹圓　四回拂貳拾圓

◉脊は岡野蒿伯意匠金箔押秋草模樣◉表裏同模樣空押し◉見返は小野道風手跡秋萩帖◉扇は古代色紙模樣金銀散し

發行并申込所　東京赤坂區丹後町六十四番　振替貯金口座一九九〇四番　明文社書店

◉申込所◉東京日本橋區數寄屋町　六合館◉大阪東區備後町　吉岡平助

明治四十三年　重要日記

日本第一

▲最良との定評ある本社日記は更に大改良を加へ完全無雙となれり

▲來年度の舊曆は曆本にも又他の日記にも絕無なり天下唯本社の日記にのみある

▲紙質は最良ペンにて書くも安全保證製本堅牢永久保存確證す

▲體裁本社獨特實用重寶家庭辭書兼備一冊にて他の數册を兼ぬ

上製　繪入　定價金拾五錢　郵稅八錢

明治才媛の一大奇書出づ

伯爵大隈重信君　內田康哉君　福島安正君　題字
下田歌子君　篠田利英君　序

前蒙古女學堂敎頭　一宮操子女史新著

蒙古土產

▲口繪には蒙古王清國皇族親筆其他珍奇寫眞十數挿入▼

◎著者は日露の戰爭中妙齡女子の身にて此大秘密國に入りし有名なる河原女史也

◎婦人にして單身絕域に遠行す萬感無量遂に此大紀行文を爲す：

◎女史才花の如く想泉の如し異風異俗寫し得て婉麗奇拔眞に明治才媛の世界的奇書

本文寫眞豐富　上製金文字入　八拾錢　(郵稅八錢)　淸韓臺拾錢

若宮卯之助先生著

米國史

上製金文字入　價壹圓七拾錢　(郵稅拾貳錢)　淸韓臺參拾錢

著者多年米國に在て米國歷史を專攻す邦文の米國史中第一の良書也

東京京橋區南紺屋町　(電話新橋八四七番)　實業之日本社　(郵便振替貯金口座參貳六番)　賣捌全國各地書店

實用浮石鹸

レックス

本品は全㞢界を通しての流行品

英國ホヅソン、エンドシンプソン會社特製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

AIKOKU FUJIN

(THE PATRIOTIC LADIES).

A Fortnightly Home Journal.
Circulates in all parts of Japan; Official Organ of the Japan Ladies Patriotic Society.

Head Office: Iida Machi, Kojimachi-ku, Tokyo.

All communications respecting European and American Advertisements should be addressed to

THE FAR EASTERN ADVERTISING AGENCY
(Toyo Kokoku Toritsugi Kaisha),
38, Naka Machi, Kobe, Japan.
(or London Office: 57, Craven House, Kingsway, .WC.)

胃病良藥
太田胃散

商標

時代の要求は如斯月經帶を生めり

現今月經帶と稱する物數多現れたるも皆大同小異にして經行の處置法は依然として舊來の挿入防經の法を行ひ只其上を掩ふに過ぎざる無用の長物たり、是等の物を使用せられんより寧ろ舊習に甘せらるゝに如かず、夫れ挿入に因て纖緯の殘留腐敗や倣衝を起し拭ふべからざる大害を釀すは醫學諸大家は固より各位の既に知悉せらるゝ處、然るに弊堂の安全帶は實に凡ての缺點を補ひ且つ價格底廉(本品は乙安全帶の內にさへ、ガーゼ及脫脂綿七十匁價格四十錢以上の者と尙ほ外に一種の吸收力偉大なる者との三種より成れる者壹打僅かに金三十錢なり)月經時產後及び長血白血の御方等凡ての場合に缺くべからざる現世紀の至寶なり改正定價〇甲安全帶一ダース金六十錢半ダース金三十五錢〇乙安全帶一ダース金三十錢半ダース金拾六錢〇附屬帶(但し是れは一筋にて二三年間御使用に耐へます)特別羽二重製金貳圓以上甲英ネル製金壹圓貳拾錢乙和ネル製金五十錢丙和ネル製金二十錢丁和並ネル製金十五錢〇市內は御一報次第御屆可申〇地方は安全帶貳打帶二筋迄金十二錢其上は安全帶一打及帶一筋を增す毎に金參錢宛の荷造賃及び送料が要ります〇諸學校及び大注文は特に大割引可仕候

醫學諸大家稱讚 正七位勳五等藥學士藤川次郎鑑製

發賣元 東京市本郷區湯島天神町三ノ二 安全堂

特約大販賣店 東京市牛込區袋町二十六番地 御園商店

御用の御方は特約大販賣店へ御申込を乞

改良婦人もゝ引

色合 赤、白、桃色、鼠、定價 中長 九十五錢 大長 一圓五錢

昨冬非常の好評を辱せる本品は最精撰のネル地製にして腰卷を附隨しあれば御召工合のよき事は在來の婦人股引の比にあらず尙本年更らに改良を加へ股引と腰卷の取りはずしができ別々に洗濯する便宜あり婦人方冬の股引には全くこれが一等なり

愛兒の健康に注意する方は

改良衛生もゝ引

大小便自在本ネル綿ネル製

二才用廿四錢　三才用卅八錢　四才用四十四錢　五六才用四十八錢

送料代金引換小包四足迄金拾七錢

ねびへしらず本舖

東京市日本橋區ふきや町(電浪二三三四八番)

佃屋商店

タカヂアスターゼ

●不消化の徵候(醫學博士谷口長雄氏曰く『澱粉不消化に因する疾病の重なる徵候は胃の膨滿、疼痛、溜飲、腸內瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚しく營養障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』と

●高峰博士發見の製法に從ふタカヂアスターゼは每瓶强度一定効力不變なり是れ普通製法の幾多摸造品と異る特長なり眞正なるタカヂアスターゼを得んには必ず高峰博士のタカヂアスターゼと指定せられよ粉末錠劑の二種あり各地に於ける信用ある藥舖にて取次販賣す

●醫學大家の報告を收載せる『タカヂアスターゼ說明書』あり發賣元東京日本橋室町三丁目三共合資會社へ申込まるれば無代郵送す

最新刊

女子大學校教授 塩井雨江先生著

華族女學校教授 小野鷲堂先生書

女子大學校教授 中村春堂先生書

新體女用文

本書は作者塩井雨江先生が在來の書翰文の陳腐冗長、輕浮無趣味なる弊を打破せんとの苦心に成るもの、措辭の清新、風情の洗錬、趣味の津々、眞に書翰文の好模範たり、上欄には諸種の手紙の作方を示さる。書は斯道の大家小野鷲堂中村春堂兩先生が絶妙の手腕を以て大字小字に書き分けられたるものにて其優麗優美の筆は習字の龜鑑たり、新なる文と筆相待つて明治新時代を飾るの花たるべし、乞ふ江湖の令孃淑女方、挨く机上の好伴侶として朝夕愛讀の榮をたまはらん事を。

大倉耕濤意匠木版上半紙摺

定價金七十五錢郵稅金八錢

文體の模範

書體の標準

東京京橋中橋廣小路 前川文榮閣 振替東京四九一〇番

斜視

(本院)眼科 一般特に成形手術 (分院)

畑眼科院 牛込市谷田町三の廿新見附外 電番一八六六 入院隨時

芝區田町札の辻電車停留場前

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮內省御用達 玉寶堂

電話下谷 特九六五番 一二四四番

當季最新流行

御半ゑり

ゑり善

東京日本橋區堺町通ふきや町 電話浪花千二百七十番

資本金八百萬圓

東京京橋區木挽町 株式會社 十五銀行 電話新橋 三〇〇番 一五三〇番 三一九三番

同日本橋區新乘物町 同 日本橋支店 電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番

一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

意匠登録

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
神田三河町一ノ一九 博報堂
京橋宗十郎町一七 正路喜社
日本橋蛎殼町三ノ十一 大興社
京橋區南紺屋町一 一星社
神田須田町廿七 金蘭社
京橋區 廣告社

全く理想的美顔料として目下世界到る處の貴婦人令孃間に盛んに賞用せられつゝある佛國シモン會社製

シモンクレーム

は皮膚を白くし滑かにし又顔や手足のあれ、唇のワレ、霜ヤケ、ひゞ等に對する無雙の良劑なり

日本代理店　横濱七十番　エー、パイム商會
（各地有名なる和洋化粧品店にあり）……

内科専門
杏雲堂醫院
神田區駿河臺
電本一六六九
院長醫學博士　佐々木政吉

内科一般
板垣亭
東京神田美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
電話本局貳千九百七十番

院長醫學博士 榊順次郎　婦人科産科 毎日午前診察
副醫學士 久保德太郎　婦人科的外科 外國留學中
副醫學士 田代謹二　婦人生殖器病 泌尿器病及內科一般火木土午後診察
●施診火木土午後一時至二時
婦人科産科 榊病院
麹町三番町三三（電話番町三九五）

院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前聘者施診火木前入院診斷隨時應需松田林兩副長は目下當院に在勤
電本八八八（病院用）八九八（私宅用）
東洋内科醫院
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
院長醫學士 高田畊安
神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）
南湖院

めりんす
ゆふぜん
太物
いる
人形町通り
赤のれん
おばなや本店
電濱四三四五

催眠術

諸君は、男女の何れたるを問はず、人心を收攬、恍惚たらしめ、其心情を感化せしめ、其慾望を制抑し又は總ての位置の最上位に進まるゝ不可思議なる神秘力を享有することを希望せらるゝならん、催眠術感應のことを會得しある者が之を應用せんとせば、何れの場合を問はず、其機會は充溢せり。

任意自宅修業！—諸君は任意自宅にありて催眠術を習練されたる時は當意即妙瞬間に自他に應用し、晝夜の別なく隨意眠らすことを得、藥材の力を借らずして疾病を治療し、惡性の習慣を矯正し、他人より深厚なる愛情友誼を得、收入を增加し、尚諸君の胸中に期待せる大望を成就せしめ、或は諸君の心中に存在せる煩悶又は苦勞に對しては極力慰安を與へ、記憶力を增進し、假令如何なる困難に遭遇するも全然之に打ち勝ち得べき感應性の鞏固なる意志を養成せしむるは本書を措いて他に得べからざる事に屬す。

本書は諸君が生活上の境遇を向上改善せんには此神秘力を如何に適用すべきかを詳細に和譯解說し盡せるが故に高名なる牧師法律家、醫師、實業家及社交界の婦人が熱心に保證せらるゝ所なり仍て本書冊は無代價にて我協會の名を汎く告知せんが爲に特更らに亞米利加より進呈するものなるを以て即時萬國聯合郵便端書にて左記北亞米合衆國紐育州ローチエスター市紐育科學協會宛申込あれ

（宛名）NEW YORK INSTITUTE OF SCIENCE,
DEPT. 512 G.
ROCHESTER, N. Y., U. S. A.

宛名は英語にて右の通り記き給へ。英語の記けぬ人は右宛名を切拔きはがきの表に貼るべし

萬人欽仰の偉人傳

公爵伊藤博文

伯爵 大隈重信序辭　公爵 山縣有朋弔詞
韓長 林田龜太郎序　公爵 大山巖弔歌　吉野臥城
蘇峯 德富猪一郎序　侯爵 桂太郎弔歌　高瀨火海　共著
侯爵 松方正義弔詞

菊判全一冊　紙質印刷特撰　紙數四百頁
特別製金二圓　但し五百冊限り
上製金一圓　特價金一圓十五錢
郵送料金十錢

口繪　寫眞銅版二十七個入

公の事歴は萬人の等しく知らんと欲する所。然れ共未だ其完全なる詳傳無きを天下之を遺憾とす本書は曾て韓國某大官の委囑に依て草せしもの公の薨去に際し更に修正補增し聊か敬弔の意を表せんが爲めに特價を以て江湖に頒つ明治中興の功臣たる公の英靈に對し我國民は必ず一本を永久に備へざる可からず。

發行所　東京　神田區駿河臺　文明堂

山家集唯一の註釋書

西行法師原著　子爵渡邊千秋先生序文
釋固淨師註解　和軒梅澤精一先生校訂

山家集詳解

◎菊判全一冊五百頁餘◎最上クロース金文字入美本
◎定價貳圓五拾錢　郵税金十四錢

特價と附錄は僅かに一千部に限る。御注意く

一千部限り特價金貳圓送料金十四錢

本書は山家集唯一の註釋書にして讃州來光寺住職釋固淨師が西行上人六百年忌に手向けたる珍本也。されど早く絶版して都下の圖書館にすら之を備へず。原本五冊、增補山家集抄と云ふ。渡邊先生梅澤先生が嚴密なる校訂を加へ津輕伯爵家所藏の西行法師物語繪卷物より撮影せる古風の挿圖二十個と渡邊子爵家藏の西上人の肉筆河内弘川寺なる西上人墳墓に木造等の寫眞を初として名所圖繪より撮影せる各種の挿圖を添へたれば趣味と實益無盡藏の註釋書也。國學者歌學者は勿論、文學、美術、教育、宗教等に志す者の必ず其の座右に備へざるべからざる最良の書也。

附錄　有名なる土佐周廣筆西行法師畫像　幅一尺二寸長さ四尺の掛軸、極彩色十度摺りこれ又容易に得難き逸品也。

發行所　東京神田駿河臺　佛教圖書出版協會
同　東京神田駿河臺　文明堂

明治四十二年十一月廿日發行（毎月五日廿日二回）（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要）廣告料一行金六拾錢　編輯人兼印刷人 山澤俊夫　發行人 永持德一　發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京市牛込區榎町日清印刷株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄

愛國婦人會記事

明治四十二年十月中 業務一班

第一、職員囑託并退職

囑託
本會會長子爵夫人 岡部垣子
同副會長伯爵夫人 阿部篤子
同 理事伯爵夫人 阿部篤子
同 同 男爵夫人 濱尾作子
同 同 鍋島絢子
同 同 三輪田眞佐子
栃木支部評議員 嶋崎竹代子
奈良支部同 川面とよ子
山口支部同男爵夫人 毛利由理子
同 同男爵夫人 楫取美和子
同 同 吉岡延子

退職
各支部幹事部長山口圍子外五名
各支部幹事部顧問小田野直淸外四名
各支部幹事部幹事城アグリ子外四十名
辭退 本會副會長公爵夫人 一條悦子
死亡 廣島支部長 宗像直子
轉任 千葉支部評議員 石井まさ子
同 奈良支部同 田名部おく利子
同 佐賀支部同 神埼よし子
同 同 同 武富ぬひ子
轉任辭退 各支部幹事部長山口萬子外四名
同 各支部幹事部顧問鮎井龜太郎外四名
轉任 愛知支部參與 枝鎌二
同 青森支部主事 馬場文雄
轉任辭退死亡等各支部幹事部幹事 池田さた子外二十九名

第二、有功章、賞狀、謝狀、物品、

有功章賞狀
金百圓寄附ニ依リ三等有功章並賞狀
東京支部 梅屋トリ
金五拾圓寄附及功績ニ依リ二等有功章並賞狀
兵庫支部 水野しま子
金五拾圓寄附ニ依リ三等有功章並ニ賞狀
新潟支部 山口みさ子
功績ニ依リ一等有功章並賞狀
長野支部幹事部長 黑川美濃子
同 幹事部顧問 黑川光鑑
金百五拾圓寄附ニ依リ二等有功章並賞狀
同 望月ちゑ
同 小川勝江
功績ニ依リ一等有功章並賞狀
同幹事部委員 百瀨豐三郎
同 相馬喜一郎
同 岩原愛饒
同 米倉源十郎
同 穗苅安作
金五拾圓寄附ニ依リ三等有功章並賞狀
功績ニ依リ一等有功章並賞狀 望月やつ
金參百圓寄附ニ依リ一等有功章並賞狀
宮城支部評議員 新妻トク子
同 伊達巨峰
功績ニ依リ二等有功章並賞狀
同 評議員 松永とみ子
外畧ス

京部支部總會記事

京都支部第八回總會に付副會長伯爵夫人阿部篤子氏は評議員丹羽花子並に會計課長杉原全鎌の兩氏と共に臨場の爲め十一月五日午前八時三十分新橋驛發名古屋一泊の上翌六日午後一時二十分京都驛に着す京都支部に於ては支部長大森齡子副長昌谷楗子兩氏を始め評議員兼京都市幹事部長平井佐賀子氏外幹事數十名プラットホームに迎へられ阿部副會長丹羽評議員は豫め差し廻したる馬車に大森支部長昌谷副長と同乘して京都市姉小路旅館俵屋に投宿せり

翌七日午後二時總會終了後阿部副會長は丹羽評議員と遊説員富樫まき子氏等と馬車にて歸途大森支部長を其自邸に訪ひ同日午後五時より京都支部職員の發起に係る懇親會場なる中村樓に出席し八時歸宿す

翌八日午前九時三十分京都驛發歸路に就きしが京都支部にては支部長初め職員一同停車場迄見送れり副會長初め一同京都支部長職員諸子の非常なる熱心を以て事に當られしを滿足して去る十日午後四時四十五分無事歸京せり

愛媛支部新居郡幹事部幹事 佩二等有功章 三島シゲノ子

熊本支部幹事 福田早子

群馬支部幹事 佩三等有功章 清塚モヨ子

長崎支部佐世保幹事部 幹事副島セイ子

京都支部總會の狀況

京都支部總會は十一月七日午前十一時より京都市岡崎公園平安神宮境内に於て擧行されたるが當日は朝來の秋日和心地好く麗かに晴れ渡りて一片の雲だになく竿頭高く交叉されたる大國旗は秋風に飜りて坐ろに愛國婦人會の盛況を祝福するに似たり豫定の時刻に至れば支部長大森齡子同副長昌谷楗子氏を初め幹事部長牛井佐賀子大澤三輪加藤の各幹事其他一般會員の參集するもの雲霞の如く如何に會員の熱心と隆盛なるを立證するに足れり其數三千五百餘名と算せらる式は奏樂の音と共に開かれたり先づ支部副長昌谷楗子氏の開會の辭次て支部長大森齡子氏は三十七八年戰役に關する　皇后陛下御令旨を捧讀し副會長阿部篤子氏は徐ろに左の　總裁殿下の御諭旨を捧讀す

愛國婦人會京都支部第八回總會を開くに至りしは欣喜する所なり惟ふに本會の事業は前途尙ほ遼遠なるべく其發展を計らんには會員諸氏の熱誠に須たざるべからず諸氏幸に協心戮力以て大成を期せんことを望む

明治四十二年十一月七日

次に大森支部長は左の奉答辭を朗讀す

愛國婦人會京都支部第八回總會を開くに當り總裁宮殿下は特に優渥なる御諭旨を賜りたる我等の最も光榮とする所なり惟ふに我が支部の會務は未だ充分なる發展を見ずといへども現今の會員はいとも熱心に且つ本會の目的を貫徹せばやとの赤心よりなれるものにして隨て遺族廢兵の救護慰藉の方法も漸く其緒につけり實にかくの如くに至りたるは上總裁宮殿下の夙に會務に御熱誠なるたまものに外ならずと我等いとゞ感激の至りに堪へざる所なりされば我等會員一同尙ほ倦まず撓まず奮勵協力以て會員の增加をはかり益會務の發展に努め御諭旨の萬一にも副はん事を期す茲に謹みて答辭を奉る

明治四十二年十一月七日
愛國婦人會京都支部長 大森齡子

夫より有功章一等三等の授賞式に移り大澤幹事の呼出に連れ左の諸氏に授賞す

▲有功一等 京都河島末菊子 ▲同世木幸子 ▲同竹内千代子 ▲同三等 京都鈴木千代子 ▲何鹿竹澤梅野子 ▲乙訓森本登代子 ▲乙訓岡田隆子 ▲同大西貴枝子 ▲船井田中くら子 ▲同小林富風子 ▲謝狀 橋川惠須 ▲松本範吉 ▲山田靜子 ▲牛窪操子 ▲佐久間栢枝子 ▲山木瀧子 ▲金原みつ子 ▲窪田竹子 ▲松本しか子 ▲林文子 ▲澤田靜子 ▲三上淸見子 ▲松本さと子 ▲下村れい子 ▲筒井房枝子 ▲稻田眞喜尾子 ▲土田つる子 ▲倉橋なか子 ▲市田操子 ▲鳥居やゑ子 ▲小泉しげ子 ▲阪根ふで子 ▲同うた子 ▲小長谷つや子 ▲時武かれ子 ▲向井くに子 ▲折戸じゆん子 ▲新山よれ子 ▲若森京子 ▲小倉せい子 ▲三宅こう子 ▲後藤千代子 ▲白須きの子 ▲伊達美伊子 ▲廣野こう子 ▲山田ふさ子 ▲海部歌子

慝くて丁寧莊重なる授賞の式了るや丹羽評議員は徐ろに壇の中央に進み左の岡部會長の祝辭を代讀す

會長祝辭

愛國婦人會京都支部の本日を以て第八回總會の式を擧行するに至りしは垣子の大に喜ぶ所なり顧ふに當支部設置以降每年總會の催ありて逐次會務の擴張と整理とを企畫せらるゝは各支部中顯著なる所にして會員諸姉妹方の熱誠なる洵に感歎するに餘あり尙後倫力めて已まず益々健全なる發達の効果を收めんことを期せらるべし玆に一言を述べ以て祝辭とす

明治四十二年十一月七日
愛國婦人會長子爵夫人 岡部垣子

次に昌谷副長の閉會の辭にて、全く式を終りたるは午前十一時四十分なりき閉會後會員軍人遺族癈兵には夫々茶菓を供し來賓には美術館に於て立食の饗應ありたり尙ほ有功章佩用者其他會員一般に御所及び二條修學院桂離宮等の拜觀を許されたり

明治四十一年度愛國婦人會京都支部會計決算報告

基本金之部
一金參千七百七拾圓四拾九錢　四十年度ヨリ越高
一金千四百六拾八圓五拾四錢貳厘　四十一年度會費步合
合計金五千貳百參拾九圓參錢貳厘

救護金之部
一金壹萬五千八百八拾五圓拾壹錢四厘　四十年度ヨリ越高
一金千五百拾七圓八錢五厘　四十一年度會費步合ノ內繰入
合計金壹萬七千四百貳圓拾九錢九厘

收支勘定之部

收入
一金千貳百七圓八拾貳錢八厘　四十年度ヨリ越高
一金壹萬四千六百八拾五圓四拾貳錢貳厘　四十一年度會費收納高
一金千八百貳拾七圓拾六錢九厘　寄附金
一金千參百七拾四圓貳拾參錢五厘　雜收入
內
金千參百六拾七圓七拾貳錢四厘　預金利子
金六圓五拾壹錢壹厘　雜入
一金千參百八拾七圓　定期救護金本部ヨリ受入
一金七圓貳拾錢　徽章再渡代收入
收入金計金貳萬四百八拾八圓八拾五錢七厘

支出
一金五千百六拾五圓貳拾六錢　支部經費
內
金千九百拾八圓九拾參錢參厘　事務費
金千六百拾九圓貳拾五錢貳厘　雜費
金千六百貳拾七圓七錢五厘　幹事部費
一金千貳百七拾四圓四拾參錢四厘　總會費
一金四百拾七圓拾四錢　募集費
一金千參百參拾七圓　定期救護費
一金拾六圓　臨時救護費
一金貳千百參拾五圓五拾壹錢七厘　事業費へ繰入
一金五千八百七拾四圓拾七錢　會費步合本部納
一金七圓貳拾錢　徽章再渡代同上
支出合計金壹萬六千百貳拾六圓七拾貳錢貳厘
差引殘金四千參百六拾貳圓拾參錢六厘
內
金千四百六拾八圓五拾四錢貳厘　基本金へ組入
金千五百拾七圓八錢五厘　救護資金へ組入
金拾壹圓　定期救護費殘金本部へ返納
金千貳百六拾五圓五拾錢九厘　全ク殘餘翌年度へ繰越

右之通候也

明治四十一年十二月
愛國婦人會京都支部長 大森齡子
同 副長 三井通子
同 副長 昌谷楗子

右監査ヲ遂ケ相違ナキコトヲ證ス
會計監督 支部副長、中澤楠雅子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

田中主事の演說（上）

十月廿五日周智郡三倉村に於ける同村赤十字社員井愛國婦人會員總會席上に於て赤十字社靜岡支部常務幹事兼愛國婦人會靜岡支部主事田中久太郎氏演說の大要筆記左の如し

本月は當村赤十字社員及愛國婦人會員の總會に付双方を通じての談話をなさんとの考なり其積りにて聽時清聽を煩はしたし赤十字社は戰地軍隊に於ける彼我病傷者の狀態を改善するので生者を救護敬愛する事業である愛國婦人會は戰地病歿者の寡婦孤兒を救助するので即ち死者に對して遺族を扶助慰藉するのである又一方は五大洲に通ずる仁愛事業で世界的である一方は內地軍人の遺族に限つて居るので內國的事業である其加盟者も一方は目下其大部分は男社員で有て婦人は比較的少數である一方は會員は女子に限られて居て男子の贊同者あれども其は贊助員として正會員でない此の如く形體と働とに於て相違はあれども双方を一貫して其精神とも云ふべきものは仁愛である英國の哲學者ベーコン氏解て曰く仁愛は人類の福利安寧を進むるもの又德行中の最大なるものにして何人にも深く刻み込まれたる習性である併しながら未開の人類に在ては稍もすれば人類相互の間に發せずして人類以外の動物に對して發漏せるをあり往昔土耳古に耶蘇教信者と回々教信者との子供あり或る時耶蘇教信者の子供一羽の鳥を捕へ苛酷に弄びたりと回々教信者の子供が群集して耶蘇教信者の子供を毆打し殆んど死に至らしめんとしたりと仁愛は場合により多少此の如き誤謬ありと雖も過度の弊を生ずるとはない之に反して權勢財産等に兎角過度の弊に陷り安く權勢は我國歷史の示せる如く其例少なからず又財産に關しては殊に日々の新聞紙其他に於て多々見聞する所なれば此亦敢て辯例の要なく甚しきに至ては遂に其身を亡ぼし家名を失ふに至るものである併しながら仁愛には決して此の如き弊害を來すとはない苟も人間にして仁愛心あらざれば此の世に齷齪たる作惡動物にして社界の害蟲たるに過ぎない又釋尊が悉達太子たりし時代に於て民情視察の途次老者病者を見又葬儀に會して熟々人生を覺り思ふ樣人間と生れて成人し老て死す此の僅々たる間に於て何時病氣に冒され又如何に富貴の身にありても何時貧苦に陷るやも計られない此等の事誠に慨の無き事にて到底頼むに足らない

皆様(みなさま)今日(けふ)もまた丈夫(ぢやうぶ)で元氣(げんき)で心(しん)から愉快(ゆくわい)に「暮(くら)す樣(やう)」

「ゼム」を今(いま)すぐ召上(めしあが)れ

▼全國各藥店にあり

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六七九番）

診察時間 自午前九時 至正十二時

內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長 ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

○院長 ドクトル 木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）
婦人科產科木村病院

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

小兒病診療 往診午後 宅診午前
淺草區新福井町二（死町電車停留場際）
醫學士 內田愼太郎（電話下谷七一八）

腦神經精神病科
病室清新 診療確實
東京龜戶町 電話浪花二五五二
加命堂腦病院

小兒病一般
京橋區南鍋町風月支店斜向電新四八八番
宅診午前 午後
醫學士 福田謙之

◎**產科婦人科**
芝、明船町十九虎門外 電話新橋三三二四番
櫻井克巳

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側 御影堂
持阿彌

最上醬油 キハク印
於勸業博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

東京勸業博覽會二等賞受領

都足袋粹乃友

都足袋は外觀優美にして踵に縫目なく衣服の裾を傷ふことなく製作に最も注意を拂へり故に其の履工合尤もよろし
（拾足以上は送料當店持）

東京日本橋室町三丁目
龜屋 宮內清兵衛
電話本局一七二番

東京市麴町區錢瓶町（常磐橋內）
日本興業銀行
電話本局 一、二八〇〇番 三、三〇〇番 四一番（特）三七番 一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法津規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

季節向流行の**半ゑりは神田赤のきんに限る**
本店 神田表神保町壹番 電話本局二八五三
出店 新橋博品館階上

妾事毛に種々藥を試しも効なく醫士夫人合博所迄三百者へ
より寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに有餘の證狀を受け不思議のまゝ倘困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ
東京々橋瀧前堀一ノ四 河村愛子

ちゞれ毛くせ毛 もはへうけあい 二大奇方劑

本方は**女髮結師安部歌子女史**の多年實驗を經たる證明秘方劑にして是れ迄の使用者を悉く滿足せしめたる奇劑なり往復端書紹介詳報す
東京市麴町區三番町六十七 小林濟世園

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN